

視点(2148)

キツネザルの飽和・多様化とチーターモンキーの出現!!

(研究思考と成果の概念編)

マダガスカルでは住と食物の環境の多層化による「キツネザルの多様化」が起きました。SC理論で言う「マーケットの多層化によるSCの多様化」へと結びつく理論です。

原始キツネザルは8,000万年前にアフリカ大陸から移ってきて、天敵のいないマダガスカルで大繁栄したサルです。しかし、食物等が飽和状態になって、成長の限界点に達した時期に、天敵がいないことと、マダガスカルの地形の多層化に適応して自らを変化させ、“種”を60~80種にまで異常に多様化させ、自然や地形に対応して数を増やしました。流通先進国・アメリカでもSCが出現して、天敵が少ない状態の中で異常に大繁栄し、やがて飽和期(マーケットとSCの需給のバランスが均衡した状態)となり、その後は経済の成熟化によるマーケットの多層化に基づき、SCが多様化し、現在のアメリカのSCが11万ヶ所、売場面積で45%、売上高で54%まで小売業で占めるようになりました。

今、アメリカではデッドモール(廃モール化)がSCの経年劣化(ソフトとハードの両面)とネット通販(広義にはオンラインショップ)によって起こっています。

特に、このネット通販の進出によるSCデッドモール化現象を私は「マダガスカルにキツネザルの天敵となる新動物(新径獣)が出現し、その径獣の名を“チーターモンキー”」と比喻化しました。

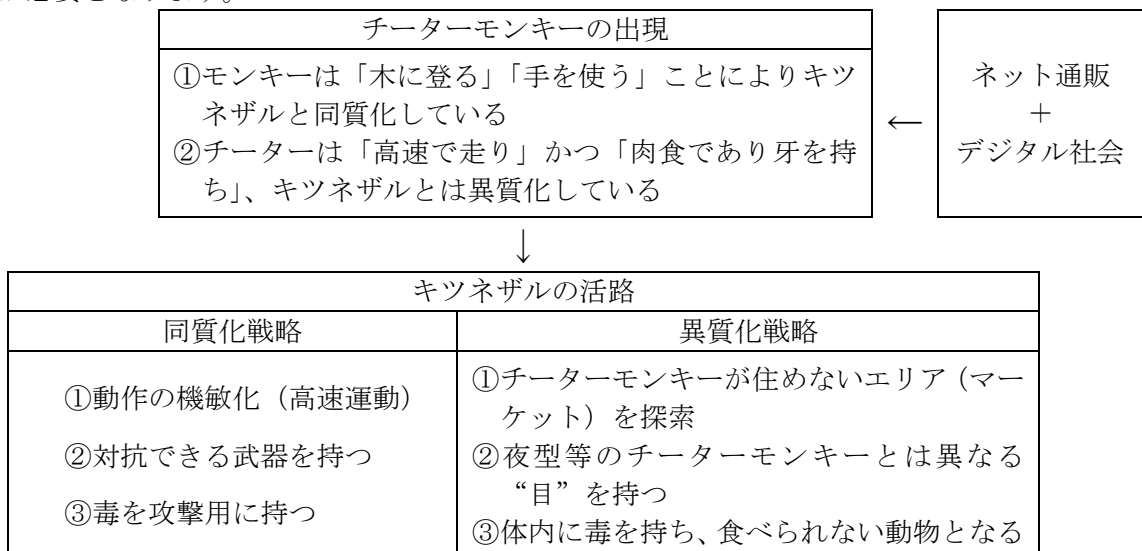
このチーターモンキーは、モンキーという猿であり、キツネザルと同様の機能・性格を持つと同時に、チーターという機敏な運動力を持ち、かつ強力な牙を持つ肉食動物、まさにキツネザルの天敵となる新・動物の出現です。

これはアメリカで起こっている今まで無敵のSCがネット通販に追い上げられている姿と一緒にです。

キツネザルは今までに「**第1ステップの大変革**」として、食料の飽和化で“種”の多様化により身体を変え、食べ物を変え、住み家を変えてリノベーション型大変化を遂げました。この内容をSCと比較すると次の通りです。

- ①原始キツネザルの減少(スタンダード型SC業態の減少)
- ②キツネザルの“種”の多様化(SCの業態の多様化)
- ③キツネザルの種の多様化は、マダガスカルの地形と食料の多層化に見事に適用した結果である(SCの多様化はマーケットの多層化に見事に適用した結果である)
- ④キツネザルやSCの飽和期は「新規=退店のプラマイ“ゼロ”」でしたが、成熟期は「新規>退店」となり増加はするが、飽和期以前の半分以下の増加でしかなくなる

しかし、マダガスカルにキツネザルの天敵のチーターモンキー(ネット通販)が現れると「**第2ステップの大変革**」が必要となります。



(株)ダイナミックマーケティング社⁺
代表 六 軍 秀 之